

「教員は学校で育つ」を支援するセンター研修

総務企画部長兼企画課長 山口博徳

額に汗をかきながら、多くの教員が、ここ長崎県教育センターを訪れています。今年度、「教員等の資質向上に関する指標」を踏まえ、経年研修を大幅に見直しました。「教員は学校で育つ」を基本理念とし、センター研修は、学校での学びを価値付け、深化させ、補充する役割を果たしたいと考えています。

特徴的な研修を二つ紹介します。

1 県立特別支援学校若手教職員研修（2年目・5年目研修：第1ステージ）

一部の研修を合同とし、メンター（援助者：5年目）が、メンティ（被援助者：2年目）の課題解決や悩みの解消を援助する「メンター研修」を実施しました。責任と憧れが交流し、双方にとって大変意義ある学びとなりました。



研修終了後、ある学校では、受講者が中心となり、ペテランを巻き込んだ「メンター研修」を実施したそうです。

受講者感想

- ・自分自身が助言をしていく立場になるという自覚をもちながら、仕事に向き合っていきたい。（2年目）
- ・雰囲気づくりや相手の意図を汲みながら伝える難しさを感じたが、自分自身の課題が明確になり、今後の実践につながる機会となった。（5年目）

2 公立小学校中堅教諭等研修（11年目対象：第2ステージ）

ミドルリーダー育成に特化した研修を行い、受講者は協議や演習を通して、組織の中での立場や役割を自覚し、学校づくりに参画しようとする意識が高まりました。



また、自らの実践を振り返る「省察」により、同期のメンバーの共感的な理解のもと、10年の月日の意義を再認識することができました。

この研修で得た自覚と自信が、第3ステージ以降の力になると確信しています。

受講者感想

- ・心のシャッターを開け、これまでの自分の思いや考えを伝えることができ、あまりない機会、良い時間となった。
- ・自らが発信し、同期の先生方から話を聞くことができた。みんな頑張っていると分かり、心から「先生として頑張りたい」とパワーが湧いてきた。

「主体的・対話的で深い学び」は、子供たちばかりではなく、教員の資質能力の向上にも必要不可欠です。

今後も、頭の中に爽快な汗をかくようなセンター研修を実施していきます。